

令和 8 年度第 1 回草加市社会福祉審議会会議録

1 開催日時

令和 8 年 7 月 3 1 日（金）午後 3 時 1 5 分から午後 5 時 1 5 分まで

2 開催場所

草加市役所第二庁舎 4 階 会議室 B ・ C

3 出席者の氏名

- (1) 委 員 小林 紀之委員、町井 誠子委員、帛溪 文有委員、
渡辺 文江委員、齋藤 幸子委員、岡村 圭子委員、
保科 寧子委員、蓮沼 清光委員、小暮 徹委員、
唐牛 邦彦委員、寺嶋 八重子委員
- (2) 事務局 大熊福祉部長、浅井福祉部副部長、
長堀福祉部副部長兼福祉政策課長、森村福祉政策課課長補佐、
浅井福祉政策課政策総務係長、出口福祉政策課主査

4 会議の次第

- (1) 開 会
- (2) 委員紹介
- (3) 事務局紹介
- (4) 会長の選任及び会長代理の指名について
- (5) 福祉における公・民の役割の在り方について
- (6) 閉 会

5 公開・非公開の別

公開

6 傍聴者数

0 人

7 審議の結果

- (1) 会長は岡村委員に、会長代理は齋藤委員に決定した。

- (2) 福祉における公・民の役割の在り方について事務局から説明を行い、それに対する質疑、意見交換が行われた。

8 主な意見

- ・ 町会加入率の低下や、役員・民生委員のなり手不足が大きな課題として挙げられた。会費の負担感、メリットの感じづらさ、住民の意識の変化により、地域の見守りや助け合い機能の維持が困難になっている。
- ・ 地域コミュニティの繋がりが薄れる中で、町会費を「防災備蓄品のサブスク」に見立てるアプローチや、SNSを活用した情報共有など、時代や価値観の変化に合わせた工夫が必要である。
- ・ 独居高齢者の安否確認や見守りについては、全てを町会や行政だけで抱え込まず、新聞や食事・乳製品の配達などを行う民間企業のネットワークを部分的に活用していく方法や、住民を二人一組にして互いを支援し合うバディ制度の事例も参考にできる。
- ・ 介護保険制度の開始などにより、それまで地域のボランティアが担ってきた部分を制度で担うようになったことで、逆に地域の活気が失われたように感じられた面もある。
- ・ 町会・自治会や行政だけに頼るのではなく、住民一人ひとりがかつての思いやりの気持ちや支え合いの精神を取り戻し、地域に関心を持って協力し合える関係をどう作っていくかが重要だ。

9 審議の概要

詳細な会議録は市役所情報コーナーで公開する。